

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第15号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第15号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています  
[https://www.pref.saga.lg.jp/ki\\_ji00323270/index.html](https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00323270/index.html)

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	29.3	1.0	33.4	34.8	1.4	24.5	25.7	1.2	29.3	59.5	203	35.5	38.9	110
	2	28.2	28.2	0.0	33.3	33.3	0.0	24.5	24.2	-0.3	30.0	90.5	302	34.7	31.9	92
	3	28.0	24.6	-3.4	33.0	27.1	-5.9	24.4	22.7	-1.7	32.8	739.0	2253	32.8	3.3	10
	4	27.6			32.6			24.1			35.0			31.4		
	5	27.1			32.2			23.5			37.9			30.1		
	6	26.4			31.5			22.8			48.6			34.3		

○8月3半月の平均気温は平年より3°Cほど低く推移した。また、秋雨前線の停滞により8月11日から17日かけての総降雨量は876.5mmとなった。

◀福岡管区気象台の1か月天気予報（8月12日発表）（予報期間 8月14日から9月13日まで）

前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は並か少ないでしょう。向こう1ヶ月の気温は、ほぼ平年並の見込みです。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月17日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/12 移植 武雄市橋町	本年値					出穂期は8月10日となり 平年に比べて2日程度早い。
さがびより 6/19 移植 武雄市橋町	本年値	82.9	386	13.5	35.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈は平年より高く、茎数は平年並み。</li> <li>主稈出葉数は平年並み。</li> <li>葉色は平年並み。</li> </ul> ※幼穂形成始期8月8日頃
	平年値	80.1	398	13.6	34.9	
	平年比	112	97	-0.1	+0.1	

※夢しずくおよびさがびよりの平年値はH21～R2の平均値。 耕種概要は稲作情報第8号参照



## 2) ウンカ類

- ・本年は、平年に比べ20日早い梅雨入りとなり、5月中旬から飛来を確認され、5月11日、7月4日、7月8～9日、12～13日にトビロウンカの飛来が確認されている。**※8月14日～15日頃にかけて新たなトビロウンカの飛来を確認されました。**

9月の気温は平年並みまたは高いと予想されており、今後増殖する恐れがあるため、本田防除の適切な実施が極めて重要である。

図1 トビロウンカにおける各世代の発生予測を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底する。

なお、トビロウンカにおける各世代の発生予測は、その後の気温等により若干変わるので、最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。

《参考 ウンカ類の25株払い落とし調査結果》

### 管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R3)

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月17日							
6月12日移植	0	0	0	0	1	0	夢しずく 情報田 ※ゼクサロン剤
6月16日移植	0	0	0	0	5	0	夢しずく (白石町馬洗) ※ゼクサロン剤
6月16日移植	0	1	0	0	0	1	夢しずく (白石町福富) ※ゼクサロン剤
6月19日移植	1	0	0	0	0	0	さがびより情報田 ※ゼクサロン剤
6月19日移植	0	0	0	0	2	0	さがびより(武雄市橋町) ※ゼクサロン剤

## 3) コブノメイガ

- ・今年、6月3～4日頃、7月3～4日頃に飛来があった。本年は、前年に比べて飛来量は少ないものの、断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。

このため、1回の散布で全ての飛来波のコブノメイガを完全に防除することは困難であるが、トビロウンカの発生状況も考慮して効率的かつ効果的な防除ができる時期に実施する。

- ・コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)である。



コブノメイガによる食害

## 4) 斑点米カメムシ

- ・「夢しずく」は出穂期を迎えており、斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期(穂揃い後10日目頃)の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。

発生が多い圃場では穂揃い期(出穂後5日頃)と乳熟期の2回防除を実施する。

**★多発生の目安 ⇒ 2.0回のすくいとり調査でカメムシが5頭以上の場合(穂揃期～乳熟期)**

- ・出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。



エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

## 5) 紋枯病

- ・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。  
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病

## 6) 白葉枯病

- ・第1次伝染源の主なものは「サヤヌカグサ」であるが、前年の被害わらなども伝染源になる。  
本病は、水媒伝染によって蔓延する。特に冠水被害や台風等の暴風後に多発生するので注意する。  
防除にあたっては、伝染源の除去、肥培管理と薬剤防除を組み合わせた総合防除を行う。
- ・朝夕、露のあるときは発病田に入らないようにする。
- ・窒素肥料の多量の追肥は避ける。
- ・現在本田期に使用できる登録農薬が限りがあり、「オリゼメート粒剤」がある。ただし、オリゼメート粒剤は白葉枯病が発生してからの散布では防除効果が低いので必ず予防防除に心がける。  
また、オリゼメート粒剤を使用した場合、品種や生育ステージによっては下葉がかれあがることもある。

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
オリゼメート粒剤	3～4kg/10a	移植活着後及び 出穂3～4週間前 収穫14日前まで	2回以内 ※プロパザールを含む農薬総 使用回数2回以内

※農薬登録は、随時変更する場合があります。

散布する際には、必ず最新の  
『農林水産省農薬登録情報提供システム』  
を確認してください。

